

令和7年11月19日

四條畷市議会議長 藤本 美佐子 様

総務建設常任委員会
委員長 岸田 敦子

総務建設常任委員会行政視察報告書

総務建設常任委員会行政視察について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 日 程 : 令和7年10月24 (金)
- 2 視察先及び : 1か所目 午前10時15分から11時45分まで
視察項目 兵庫県丹波市株式会社フォレストドア
「廃校利活用施設について」

2か所目 午後2時から3時半まで
兵庫県加東市
「公共施設統廃合と市の防災について」
- 3 視察委員 : 委員長 岸田 敦子
副委員長 森本 勉
委 員 若松 正治 、大原 芳剛
長畑 浩則 、土井 一慶
随 行 者 議会事務局 平松 康希
- 4 行政視察報告書 別紙のとおり

令和7年度 総務建設常任委員会 行政視察報告書（1か所目）

| | |
|------|---|
| 視察日時 | 令和7年10月24日（金）10時15分～11時45分 |
| 視察先 | 兵庫県丹波市 株式会社フォレストドア |
| 視察内容 | 廃校利活用施設について |
| 視察目的 | 廃校利活用の経緯や現在の管理・活用状況について |
| 調査概要 | <p>廃校となった旧神楽小学校跡地を「(株)フォレスト・ドア」が運営している状況を視察した。</p> <p>施設は、林業・製材・不動産のグループ企業が運営しているので、木のぬくもりを感じるリノベーションを実施。ワークスペースや木のおもちゃミュージアムなど大人から子どもまで活用出来る多角的なスペースがあった。</p> <p>また、校庭には、宿泊施設もあり休日は賑わう。</p> <p>来場者の9割が市外からである。</p> <p>レストランやレンタルサイクルもある。</p> <div data-bbox="370 864 828 1236" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="957 766 1276 1223" data-label="Image"> </div> <p>開放感があり、デザイン性高い研修室。談話、学習にも使用できる（左下）</p> <div data-bbox="421 1346 970 1655" data-label="Image"> </div> <p>企業のサテライトオフィス。（右）</p> <div data-bbox="1062 1359 1383 1919" data-label="Image"> </div> <p>5室中1室が契約済み。補助金を活用。</p> <p>地元の強い要望を企業が受けて、行政から無償での貸借によって運営、5年間無償で借受けて投資。昨年より黒字化した。</p> |

| | |
|-------------------------|---|
| <p>所感（意見・感想・今後の課題等）</p> | <p><u>「成果」</u>として以下の点を指摘する意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域からの要望が先にあり、そこから廃校後の利用を考えるという、本市とは全く異なる展開があったこと。 ・施設を運営することそのものが、地域産業の振興と地域住民の交流に役立っていること。 <p><u>「本市にいかせる取り組み」</u>として以下の意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧校舎を地域資源として活用し、カフェ・物販・体験プログラム等によって来訪者を呼び込み、地域に“にぎわい”を創出している。こうしたモデルは、四條畷市でも廃校利活用の観点から非常に参考になると感じた。 <p>例えば、本市においても、地域住民・企業・行政が三位一体で“学校跡地”や“使われなくなった公共施設”を地域の交流・観光・学びの場として再構築する際、丹波市の「住民起点＋企業参画＋来訪者誘致」という設計構造を横展開することができるのではないかと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合用途の施設運営：宿泊・直売・体験など、多機能を持たせて施設の稼働・収益・地域交流を図っており、公共施設の多目的転用のヒントとなった。 ・学校跡地の利用として本市の取り組みにも生かせる点。 <p>①教室４室分ほどある木工の「おもちゃミュージアム」は、質・技術の高いからくりおもちゃで、子どもや大人にも楽しめるもので集客力がある。</p> <p>②談話、学習にも使用できる研修室の設置。</p> <p>③企業のサテライトオフィスの設置。</p> <p>④管理業者と地域住民が月１回協議の場を持ち、情報共有や連携。地域活性化をはかるための跡地活用を相談し、発展をさせていること。</p> <p><u>（感想・意見）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域木材活用＋産業振興：県産木材を前面に出した施設設計・運営で、「木材地産地消」「地域資源活用」の観点で先進的であった。 ・アクセス・環境：大阪から２時間以内で里山環境に位置し、地域・観光・移住・木材産業を絡めたまちづくりプランの視点も参考になった。 ・言葉では伝わらないが、木で作られた温かみのある施設で、来場者もどんどん増えているとの事で、本市においても種々取り入れることのできる内容と感じた。 ・木材をふんだんに使ったリフォームと宿泊施設の建設は、山林が多い地域で木材会社が請け負うからこそできる、環境にも配慮した素晴らしい取り組みと感銘を受ける。 |
|-------------------------|---|

令和7年度 総務建設常任委員会 行政視察報告書（2か所目）

| | |
|------|--|
| 視察日時 | 令和7年10月24日（金）14時00分～15時30分 |
| 視察先 | 兵庫県加東市 |
| 視察内容 | 公共施設統廃合と市の防災について |
| 視察目的 | 公共施設統廃合と市の防災について講義と市庁舎見学 |
| 調査概要 | <p>平成18年（2006年）に3町が合併し、加東市となり新庁舎を建設。 新庁舎建設に向け、19年にプロジェクトチームが設置され、21年には市民10人で構成した「検討委員会」を設置。22年度に市政懇談会、23年度に住民説明会と参加者へのアンケート、パブリックコメントを実施し、検討の結果「市民が使いやすい庁舎」「市民が集いやすい庁舎」「市民を大切にしたい庁舎」を意識して計画が練られた。</p> <p>新庁舎の設計は、24年に実施設計。設計段階では29億3000万円が、24社の入札があり、約23億4600万円（落札率約80%）となる。 免震構造は、積層ゴム支承 45基 1億1300万円 弾性すべり支承 9基 2040万円 計1億3340万円 これらの過程を経て、市役所庁舎は平成26年2月24日に竣工し稼働した。</p> <p>4階の管財課に中央監視システムを導入。 開放的で明るく、おしゃれなロビー（写真下 左） 市民が探しやすい課の配置。（写真下 中央） 地熱エネルギーを利用した空調の工夫もなされていた。 （写真下 右）</p> <div data-bbox="1171 824 1465 1209" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="368 1341 898 1637" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="898 1270 1184 1709" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1184 1270 1477 1709" data-label="Image"> </div> <p>施設は、防災拠点となるため、免震装置を備え、太陽光発電や地熱利用したヒートポンプチャラーを採用し床下吹出し空調など素晴らしい施設だった。</p> <p>屋上にあがり、太陽光パネルや隣にあるモダンな建築物の小中一貫校も見た。 小中一貫校は建設計画も含めて3校。開始している学校のアンケートでは、肯定的な意見がほとんどで、学習や生徒の意識改革に結果としてプラスになっていることが分かっている。</p> |

| | |
|------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育制度の導入に向けた体制整備と、教育委員会・学校現場・地域との連携フレームを学んだ。 ・庁舎を建て替える際に実施された耐震対策・来庁者・職員双方の利便性を配慮した施設配置・ユニバーサルデザインの導入など、建築・施設整備面で先進性のある工夫が多数見受けられた。 |
| 所感（意見・感想・今後の課題等） | <p>「<u>成果</u>」として以下の意見があった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁舎は免震装置を採用し、震度 6 強程度の地震においても建物機能を保持できる構造となっており、実際、震度 5 の地震においても免震機能が働いた結果はなく、耐震性のみで問題はなかったのが理解できた。 ・非常用発電設備、受水槽等を完備し、3 日間の停電や断水にも対応可能な体制を整備しているのが理解できた。 <p>「<u>本市にいかせる取り組み</u>」として以下の意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市が今後検討を進める庁舎建替え・公共施設整備の方向性において、極めて重要な示唆を与える内容だった。例えば、施設老朽化・耐震化への対応、来庁者サービスの合理化、複合利用（教育・地域活動・福祉など）の可能性という観点から、加東市の設計思想を四條畷市においても当てはめていくことが可能と感じた。 ・執務室はできるだけ壁を設けず、災害時にも対応できるような設計にしたそうだが、囲みの部屋が少ないので、会議室・書庫が少ないなどの職員の声もあるそうで、その点は本市の市庁舎建替え等にも参考にすべきである。 ・反省点としてあげられたのがエレベーターの広さ（救急による 寝台が入らない）やエアコンの見た目を気にしたから今後のメンテナンスが大変になるなど、本市においても参考になる話があった。 ・免震構造に掛かった費用は当時で約 1.3 億円要したとのことであるが、実際地下に入り、免振装置を拝見すると相当大きなものであった。また、建物から 60 cm 隙間を開けているとの事でそれだけの揺れに対応するもので、本市でも費用との兼ね合いもあるが検討する価値は十分にあると感じた。 <p>（<u>感想・意見</u>）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下の熱を利用した空調を取り入れるなど、本市の今後の施設整備に大いに参考になった。 |

視察の様子

1か所目視察先

10月24日
(金)
兵庫県丹波市
株式会社フォレスト
ストア



室内にて座学



現在、フォレストストアとして
廃校利活用している
旧神楽小学校

2か所目視察先

10月24日
(金)
兵庫県加東市



市役所内免震
室見学



加東市役所前